

高畠高生の活躍

本校3年生対象の探究科目「高畠ゼミ」の今年度の取り組みの様子が、山形新聞に掲載されました。

ゼミ生の加藤唯さん、遠田知伽さんのコメントも紙面に紹介されています。

高畠高生

入学者や町の人口減少…

解決策考え実践

高畠町の高畠高(吉田晴美校長)で、町の人口減少や同校の身近な問題などの解決策を探った3年生対象の探究科目「高畠ゼミ」の本年度の授業が終了した。受講した7人は学園祭でカフェを開設したり、地元の中学校でプレゼンテーションを繰り広げたりといった活動を通して、自ら考え行動する力を養った。

同校の本年度入学者数 地元の魅力を伝えた。町が定員80人の半分に満たないと高畠高の現状を伝える。38人だったことかプレゼンも積極的に取り組む。現状を変えようとする3年生の履修科目「総合的な探究の時間」に高畠ゼミを加えた。自治体が抱える課題の解決策を提案する東大の「FS(フィールドスタディー)型政策協働プログラム」に参加する。高の生徒数が減少傾向にあるなどの課題を挙げ、加する学生の協力を得る。ゼミでは町の魅力を伝えて、週に1度の授業で課題解決策を模索した。

1月26日には高畠中では、1、2年生約400人にプレゼンを行った。町では転入者より転出者の方が多いことや、高畠高の生徒数が減少傾向にあるなどの課題を挙げ、ゼミでは町の魅力を伝える活動に取り組んでいることを紹介した。

昨年10月には、学園祭の中で「はたごうカフェ」を開設した。町内企業の商品を来場者に販売し、日に東京での発表も予定

カフェ開設や中学生プレゼン 地域の魅力伝える

している。ゼミの活動に共感する後輩の姿もあり、既に2年生4人が、来年度にゼミの受講を希望している。

望している。共にゼミ生の加藤唯さん(18)は「ゼミを通してたくさんの方と交流する機会があった」と、遠田知伽さん(18)は「次の3年生には自分たちで新しく考えたことを実践してほしい」と話していた。

(菊地健介)



高畠中の生徒に向けてプレゼンテーションする高畠ゼミの生徒 高畠町(高畠高提供)